

自らの学習状況に気付ける評価活動の在り方の探究
- イメージをもって音楽表現する学習の場において -

長期研修員 清田 和泉

1	本題材「楽器の特徴を生かし、イメージをもって表現しよう」の考察.....	2
2	生徒が目標達成に向かうために必要なことは何か.....	2
	(1) 身に付けさせたいことの明確化と共有化.....	2
	(2) 教師による授業の流れの調整.....	3
	(3) 生徒による評価活動の充実.....	4
	自己評価 相互評価	
	(4) 教師の見取りと個に応じた支援.....	5
	(5) 技能習得の個人差に着目すること.....	5
3	本題材の評価規準.....	6
	(1) 第1次実践.....	6
	(2) 第2次実践当初.....	6
	(3) 最終的な評価規準.....	7
4	本題材の学習活動と評価活動の計画.....	8
	(1) 第1次実践.....	8
	(2) 第2次実践当初.....	8
	(3) 調整後の第2時の計画.....	11
	(4) 調整後の第3時の計画.....	12
5	第2次実践における「評価の進め方」.....	13
6	本題材で使用した学習カード.....	16
	(1) 学習状況チェックカード.....	16
	(2) 技能習得状況チェックカード.....	17
	(3) 学習状況ふりかえりカード.....	18

資料編

1 本題材「楽器の特徴を生かし、イメージをもって表現しよう」の考察

明治以来、日本の学校での音楽教育は西洋音楽の流れをくむ音楽を中心になされてきた。日本に古くからあった邦楽の流れは、日本独特の家元制度のもと、学校音楽教育に取り入れられることなく、全く別のものとして存在してきた。その結果、音楽の授業において、日本の音楽文化の学習は、鑑賞以外はあまりなされることがなく、身近に感じたり、よさに気付いたりする機会が少ない状態であった。

国際化が進んだ現代社会において、自国の文化のよさを語れることは重要なことである。西洋音楽のよさがわかることも大事なことであるが、日本の独自の音楽文化も尊重できる生徒を育成することが必要である。日本の音楽は、決して過去のものではなく、現在も幅広く親しまれているものである。鑑賞するだけでなく、表現活動の中に取り入れることを通じて、そのよさを感得すべきであり、和楽器の体験を通して日本の音楽に触れることは意義がある。

私たちの生活の中には、わらべうた・お祭りのお囃子・盆踊りなど、あちこちに日本の音楽があり、その感覚は、人々の身体の中に自然に染み込まれている。それを音楽教育の中に取り入れることは、至極、当然なことでもある。音楽が生活の中にあり、生涯にわたって音楽に親しめる生徒を育成するためにも、日本の音楽のよさを感じ取れるよう支援することが大切なのである。

そのような考えから、本題材では富山県民謡の「こきりこ節」を取り上げ、箏の特徴を生かした表現を試みることにした。「こきりこ節」は、富山県五箇山地方に伝わる数ある民謡の中でももっとも古く、大化の改新のころから田楽として歌い継がれてきた。狩衣姿の踊り手がささらを打ち鳴らしてゆったりと歌い踊る。民謡独特の間や節回しを感得できる教材である。また、本題材で扱う箏は、日本に古来からある楽器であり、固有のたくさんの名曲を有する。柱の位置を変えるだけで音高を自由に変わることができ、基礎的な奏法が簡易であることから、古典曲以外にも様々な曲が演奏可能である。また、弦を操作することにより、様々な余韻の変化が楽しめることから、音素材としても様々な可能性をもっている。

2 生徒が目標達成に向かうために必要なことは何か

(1) 身に付けさせたいことの明確化と共有化

資料1の場面は、生徒に以下の三点を身に付けさせる場面である。

- ・ 爪の付け方
- ・ 箏への構え方
- ・ どうやったらよい音が出るか(奏法)

教師はこの場面で、生徒に何を身に付けさせたいのかを、はっきりと自覚している(身に付けさせたいことの明確化)。そのために、(ア)のようなことばかけを行い、実際に行ってみせている。このことばにより、生徒は、どこを見ていなくてはいけないのかがわかり、緊張感をもって教師の実演を見ることになる。(イ)の範奏も同様である。

生徒が、自分が見ていなくてはいけないところがわかり、緊張感をもって教師の実演を見ていたことは次の事実からわかる。

資料1 身に付けさせたいことの明確化と共有化

(T:教師、S:生徒)

T「先生の方を見てください。」
(爪の付け方を、ゆっくり実演する。)

T「(ア)爪を付けました。お箏に向かって構えます。先生の手元を見たい人は、立ってもいいです。」

S(後ろの方の数人が立つ。)

T「(イ)「こきりこ節」を箏で弾く。」

S(教師の手元に注目している生徒がほとんどである。自分の譜面を見ている生徒もいるが、全員じっとしたまま聴いている。)

T(弾き終わって)「さあ、じゃあ、爪を付けてみましょう。」

S(無言でそれぞれに、爪を付け出す。)

T「(学習時の)ペアを決めるからね。1～2番、3～4番・・・その男子は3人で1チーム。女子もそう。」

T「さっきの学習カードにあったとおり、ペアのお友達と確認し合ってからやってみよう。爪の付け方、箏への構え方、まっすぐじゃないよね。」

S(ペアになって確認し、学習カードにチェックする。)

T「じゃあ、ペアの人と観察し合って、をつけてから始めてください。」

・教師の演奏を、じっとしたまま聴いている様子
 ・教師が、「爪を付けてみましょう。」と言ったとき、すみやかに活動を始めることができたこと。
 このように、教師と生徒が、身に付けさせたいこと・身に付けたいことを共有することが必要である。

すなわち、

・教師は、その学習活動で、生徒に何を身に付けさせたいのかをはっきりと自覚して授業に臨むこと(明確化)。また、その内容を生徒にきちんと伝えること(共有化)。
 ・生徒自身も、その学習活動で何を身に付けるのかを自覚して学習に臨めるようにすること。

が重要である。

(2) 教師による授業の流れの調整

資料2の場面は、「こきりこ節」の歌を歌えるようにしていく場面である。

この場面で、教師は(A)～(I)の授業の流れを調整することばを発している。

(A)の「そうだ、もう歌えるよ。」ということばは、教師から見た生徒の学習の定着度を、生徒たちに伝えていることばである。そこには、「その調子でいいよ。もう、できているよ。」という評価活動が加わっている。生徒はそれまで、取組にあまり意欲が見られなかったが、教師はほんの少しの調子の変化も見逃さず、タイミングよく声をかけ、生徒に自信をもたせている。このことばによって、生徒たちは、もう少しがんばっていきこう、という気持ちをもつことができる。教師は、学習活動をより深めていくために、さらに指導を進めていくことになる。

(イ)の「みんなだけで歌ってみるよ。」ということばは、生徒がほぼ正しい音程で歌えるようになったことを教師が把握できたときに、はじめて発することができる。全体の声がよく聞こえるようになってきたり、生徒の声がそろってきたことが聴き取れたときに、次の学習活動に向かうことを示唆して、言っているのである。

(ウ)の「自己評価してみよう。」を教師は三回言っているが、生徒は三回歌ったわけではなく、一回歌っただけである。その一回に力を出させるために、何度も繰り返して伝えているのである。(I)の「いい声出すためには、ぐっと背筋を伸ばしてみよう。正座できる人は正座。」も、(ウ)と同じ意図であり、次の学習活動は自己評価だということを生徒に伝え、その重要性を示唆しているのである。

また、~~~~~の部分、生徒の集中力ややる気が薄れてきているのを感じ取り、「こきりこ」の実物を見せ、その音を聞かせることを通して、違った雰囲気を作り、活気を取り戻そうとしている部分である。このことにより、生徒は気分を入れ替えて、再びもとの学習活動に戻ることができている。

以上のことから、教師の発する「授業の流れを調整することば」とは、学習の流れに沿って、

資料2 教師による授業の流れの調整

(T:教師、S:生徒)

T「・・・じゃあ、一緒に歌ってみようか。」
 (1フレーズずつ、範唱)

S (3度目でようやく、小さく声が聞こえてくる。)

T「(A)そうだ!もう歌えるよ。最初からいってみよう。」

S (とりあえず、活動はしているが、まだ、十分な音量には至らない。)

T「こきりこの実物を見せます。七寸五分じゃって歌ってるよね。」

T「(こきりこの)音を出してみます。」

S (一音に顔を上げてこきりこを見る。案内が静まりかえり、こきりこの音だけが響く。)

T「もう1回、先生、一緒に歌うから、次はみんなだけで歌ってみよう。そうしたら、覚えられたかどうかわかるから...」

S (楽譜を見るのに下を向いている生徒が多い。声は聞こえてくる。)

T「さあ、じゃあ(イ)みんなだけで歌ってみるよ。」

S (小さいが、声は聞こえる。音程も合っている。)

T「OK。さあ、どうだったかねえ。ちょっと、カードに・・・(ここでカードを配る)もう1回歌うから、(ウ)自己評価をしてみましょう。」

T「じゃあ、もう1回、歌ってみるから...。1番の(ウ)自己評価をしますからね。」

T「もう1回やるから、次に(ウ)自己評価をつけよう。四つあるよね。(I)いい声出すためには、ぐっと背筋を伸ばしてみよう。正座できる人は正座。」

T「(ウ)確かめね。」

S (こきりこ節を歌う。)

T「じゃあ、(自己評価を)つけてごらん。」

音楽活動レベルのことばで教師が生徒に伝える学習状況の評価であるといえる。すなわち、
 ・教師は、生徒の学習活動の様子から生徒の目標への達成度や学習への取組具合を評価し、その状況に応じた適切な支援を行い、授業の流れの調整を図っていくこと。
 が重要である。

(3) 生徒による評価活動の充実

自らの学習状況に気付いていくための生徒による評価には、自己評価と相互評価がある。

自己評価

前出の資料2の場面は、「こきりこ節」の歌を歌えるようにするのが目標である。最初、声の出なかった生徒たちが、教師の授業の流れの調整によって、徐々に歌えるようになっていくが、教師は自己評価に入る前に、次のようなことばをかけている。

・「もう1回、先生、一緒に歌うから、次はみんなだけで歌ってみよう。そうしたら覚えられたかどうか分かるから・・・」
 ・「さあ、じゃあみんなだけで歌ってみよう。」

これらのことばにより、生徒の気持ちの中に、「この先に、自分たちが歌えたかどうか試す場面があるのだ。がんばろう。」という意欲が生まれていく。

さらに、自己評価を行う直前のことばかけも重要である。この場面では、前述のとおり、教師は3回も同じことばを生徒に伝えている。生徒に力を出させるためである。

このように、自己評価を行うときは、

・教師が生徒の学習状況をうまくつかみ、ほぼ全員ができるようになってきたことを確認し、評価活動を行うタイミングを図ること。
 ・「自己評価をするための表現活動」で、自分にできる精一杯の表現を目指させること。

が重要である。

相互評価

資料3の場面は、「こきりこ節」がどの程度弾けるようになったかを、自己評価と相互評価により把握する場面である。

(ア)の教師のことばにより、それまで個々に練習していた生徒は、自分のペアを意識する。□の見取りの視点は、学習カードに書かれている。(イ)の教師のことばにより、相互評価が始まる。お互いに学習カードを交換し、それぞれにあてはまる習得状況のところに を付けてもらうことにより相互評価を行う。しかし、いくら相互評価の時間を設定しても、~~~~~のようになってしまうと、相互評価の意味がなくなってしまうことになる。

そこで、相互評価を行うときには、

・生徒に相互評価の価値を認識させること。
 ・生徒にも評価可能な見取りの視点を、教師がきちんと伝えること。

が重要である。

資料3 どの程度弾けるようになったか、自己評価や相互評価により把握する場面

(T:教師、S:生徒)

T「じゃあ、みんなで作ってみよう。」
 S(一人残らず、きちんとやっている。)
 T「(ア)ペアで聴き合いをしよう。」
 S(順番に弾く。)
 T「さあ、もう1回やってみて、評価、自分でしてみよう。」
 ・間違えないですらすら弾ける。
 ・つかえるけど、自分の力でどうにか弾ける。
 ・先生や友達に教えてもらえば弾ける。
 ・先生や友達に教えてもらっても、最後まではまだ弾けない。
 (この四点は、教師の設定した見取りの視点)
 T「じゃあ、もう1回、最後にやってからつけるよ。もう1回、やってみましょう。」
 T「(イ)お友達にチェックしてもらうので、奇数の人だけやってみましょう。見ていてあげて、あなたはこうだった、って を付けてあげましょう。」
 S(相互評価を行う。友達のやる様子を見ていない生徒も若干いる。)
 T「じゃあ、交替」
 T「(評価を)つけたら、渡してください」

(4) 教師の見取りと個に応じた支援

箏で「こきりこ節」を弾けるよう、生徒が自分のペースで個別に練習する場面では、教師は資料4のような見取りの視点をもって、生徒の練習の様子を見て回った。

資料4 巡回支援の際の見取りの視点

・痛くて爪がはめられない生徒はいないか。 ・奏法は大丈夫か。
・楽譜の見方は大丈夫か。 ・著しくついてこられていない生徒はいないか。

実際の個に応じた支援の様子は資料5のようである。

資料5 授業場面で支援した例

(T:教師、S:生徒)
T(生徒の間を回りながら、生徒の活動の様子をチェックする。)
S(それぞれによく取り組んでいる。)
<例1>
T「指、痛い?きつい?」 S「はい。」 T「じゃあ、テープで巻こうね。」
<例2>
T「その親指の使い方はこうだよ。(実演)」 S(やってみる。) T「そうそう」

また、この学習場面において生徒が取り組んだ様子は、資料6のようである。

資料6 生徒の取組の様子

・弾けてきても顔も上げずに練習を続ける生徒。 ・楽譜と首っ引きで、正座のまま練習する生徒。
・友達に弾き方を教えてあげている生徒。 ・友達のを聞いて、学んでいる生徒。
・正座が疲れて、足をくずしているが、よく練習を続ける生徒。

この場面での教師は、資料4のような見取りの視点をもって巡回支援しながら、まずは、目標に到達することがむずかしいと思われる生徒を見つけ、目標達成ができるよう、支援を行っている(Cと判断される生徒への支援)。また、取組の様子や学習内容が特に素晴らしい生徒を見つけ、後で全体に紹介できるようチェックしている(Aと判断される生徒の見取り)。このように、

・生徒の活動中に巡回支援するときは、目標に即した見取りの視点をもって見回り、個に応じた適切な支援をしていくこと。

が重要である。

(5) 技能習得の個人差に着目すること

前出の資料3の場面では、生徒はどの程度弾けるようになったかを、自己評価や相互評価により把握する活動を行っている。

ここは、生徒の行う評価なので、先ほどの二つの配慮事項が必要になる。「生徒の学習状況をうまくつかんで、評価活動を行うタイミングを図ること」と「自己評価をするための表現活動で自分のよさを発揮させようとする事」である。

その配慮事項の1点目から考えた場合、資料3の場面では、まだ、十分な練習時間をとっていなかったため、評価活動を行うタイミングとしてはあまりふさわしくなかった。

技能の習得は、極めて個人差のあることなので、短時間の練習で、できたかできないかという量的な見取りをするのではなく、十分に練習をしたのちに、どの程度できるようになったのかという質的な見取りをする方法がふさわしい。そのためには、「この時間ではこの目標」というように、個人差を考えない一律な目標設定を行うのではなく、「十分な練習をしたのちにどの程度できるようになったか、について質的に判断をする」という考え方で目標設定をしていくべきであった。「『こきりこ節』の曲を覚えて、箏で弾けるようにする」というねらいを、すべての生徒に1時間のうちにできるようにしようとしたことに問題があったのである。たと

え、この時間にできなくても、その生徒なりの精一杯の練習により、次の時間にはできるようになるかもしれない。その題材の学習をしていく中で、その生徒なりの学習速度で習得していけばよいことなのである。すなわち、

・技能習得の個人差を見極め、その生徒なりのペースで習得できるよう支援すること。

が重要である。

第1次実践の授業記録の分析から、以上(1)～(5)のような、生徒が目標達成に向かうために必要なことを見いだすことができた。これらの考え方をより明確にし、意図的に指導案に位置付けながら、第2次実践に取り組んだ。

3 本題材の評価規準

(1) 第1次実践

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
ご内 と容 のの 評ま 価と 規ま 準り	・ 構造的側面の知覚、感性的側面の感受に関心をもち、表現することに意欲的である。	・ 音楽の構成要素・表現要素を知覚し、それらが生み出す曲想を感じ取っている。 ・ 楽器の音の特性や奏法の特色や効果を感じ取り、それらを生かして表現を工夫している。	・ 楽器の音の特性や奏法を生かして、表現する技能を身に付けている。 ・ 声部の役割を生かし、全体の響きに調和させてアンサンブルをする技能を身に付けている。
題 材 の 評 価 規 準	・ 音色・独特なリズム・独特な節回し・曲の速度・曲想に関心をもち、箏で表現することに意欲的である。	・ 音色・独特なリズム・独特な節回し・曲の速度・曲想に着目して鑑賞し、それぞれの特徴を知覚したり感受したりしている ・ 箏の音の特性や奏法の特色や効果を感じ取り、それらを生かして表現を工夫している。	・ 箏の音の特性や奏法を生かして、表現する技能を身に付けている。
学 習 具 活 体 動 の に 評 お 価 け 規 る 準	「こきりこ節」を表現することに関心をもっている。 「こきりこ節」のイメージ、音色・リズム・節回し・速度・強弱・曲想に関心をもっている。 表現の工夫を発想するための試行表現に、意欲的である。	「こきりこ節」に対する自分のイメージをもち、それを生み出す音色・リズム・節回し・速度・強弱・曲想の特徴を感じ取っている。 表現したいイメージを実現するための表現の工夫をしている	箏で「こきりこ節」の表現ができる。 表現したいイメージを実現するための技能を身に付けている。

(2) 第2次実践当初

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ表現の技能
ご内 と容 のの 評ま 価と 規ま 準り	・ 構造的側面の知覚、感性的側面の感受に関心をもち、表現することに意欲的である。	・ 音楽の構成要素・表現要素を知覚し、それらが生み出す曲想を感じ取っている。 ・ 楽器の音の特性や奏法の特色や効果を感じ取り、それらを生かして表現を工夫している。	・ 楽器の音の特性や奏法を生かして、表現する技能を身に付けている。 ・ 声部の役割を生かし、全体の響きに調和させてアンサンブルをする技能を身に付けている。
題 材 評 の 価 規 準	・ 感じ取った曲の雰囲気から、自分なりの表現したいイメージをもち、箏で表現することに意欲的である。	・ 自分の表現したい音色等のイメージをもち、それらを表現するための奏法を工夫している。 ・ 箏の奏法の特色や効果を生かした表現の工夫をしている。	・ 自分のもった曲のイメージに合う表現をするための技能を身に付けている。
学 習 活 動	友達と協力しながら、表現活動に、意欲的に取り組んでいる。	「こきりこ節」のイメージを感じ取り、音楽の諸要素の働きを知覚している。 感じ取ったイメージを音で	「こきりこ節」を、箏で表現する技能を身に付けている。 自分の感じ取ったイメージを実現するための技能を身に

に 総 括 的 評 価 規 準		実現するために、表現の工夫 をしている。 友達の表現を聴き、そのよ さや工夫を聴き取っている。	付けている。 技能面の総括的評価は、題材 の終末で、各自の表現の交流の 形で行う。 打楽器を用い、全体の響きに 調和させてアンサンブルをす る技能を身に付けている。 (発展的な学習として)
学 習 活 動 に お け る 形 成 的 評 価 規 準	について a 「こきりこ節」が箏で弾け るようになりたいという期待 感をもって、途中で投げ出さ ずに練習に取り組める。 b 「こきりこ節」のイメージ を感じ取ったり、音楽の諸要 素の働きを知覚したりする活 動に取り組める。 c 自分のイメージを実現する ための試行表現活動に取り組 める。 d イメージの実現を目指して、 表現活動に取り組んでいる。	について a CDを聴いて、「こきりこ節」 のイメージを文や絵で書くこ とができる。 b CDを聴いて、音楽の諸要 素ごとに特徴を書き留めるこ とができる。 について a 自分のイメージを実現する ためにはどんな音を出せばい いのかを予想する。 b 様々な音色を出すための、 箏の奏法の種類を知る。 c 自分のイメージにあった音 を、試行表現により探してい く。 について a 友達の表現のよさや工夫を、 学習カードにメモする。	について a 「こきりこ節」を歌える。 b 爪の付け方、構え方、弾き 方がわかる。 c 楽譜の見方がわかる。 について a 譜面を見ながら、たどたど しくても最後まで弾ける。 b どこが弾けないのかが自分 でわかり、そこを取り出して 何度も練習する。 c つっかえずに弾けるよう になってきたら、自分の表現し たいイメージに合うように、 ここをこうしてみよう、を考 えていく。 d 自分の表現したいイメージ に近づくように、何度も練習 する。 e 友達に聴いてもらって、意 見をもらう。 f さらに練習する。

(3) 最終的な評価規準

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
学 習 総 活 動 的 に 評 お 価 け 規 準	友達と協力しながら、表 現活動に、意欲的に取り組 んでいる。	「こきりこ節」の音楽の諸要 素の働きを知覚している。 自分の表現したいイメージを 音で実現するための奏法等の工 夫をしている。 友達の表現を聴き、そのよさ や工夫を聴き取っている。	「こきりこ節」、箏で多 少の間違いはあっても、最後 まで弾くことができる。 「こきりこ節」を少しでも 自分なりの表現の工夫を加え ながら弾くことができる。 技能面の総括的評価は、題材 の終末で質的に行う。
学 習 活 動 に お け る 形 成 的 評 価 規	について a 「こきりこ節」が箏で弾 けるようになりたいという 期待感をもって、途中で投 げ出さずに練習に取り組め る。 b 「こきりこ節」の音楽の 諸要素の働きを知覚したり 表現したいイメージをもっ たりする活動に取り組める。 c 自分のイメージを実現す るための試行表現活動に取 り組める。 d イメージの実現を目指し て、表現活動に取り組める。	について a CDを聴き、「こきりこ節」の 音楽の諸要素ごとの特徴を書き 留めることができる。 について a 自分の表現したいイメージを とらえることができる。 b 自分のイメージを実現するた めにはどんな音を出せばいいの かを予想する。 c 様々な音色を出すための箏の 奏法を知る。 d 自分のイメージにあった音を 試行表現により探していく。 について a 友達の表現のよさや工夫を、	について a 「こきりこ節」を歌える。 b 爪の付け方や構え方、弾き 方がわかる。 c 楽譜の見方がわかる。 について a 譜面を見ながら、たどたど しくても最後まで弾ける。 b どこが弾けないのかが自分 でわかり、そこを取り出して 何度も練習する。 c 自分の表現したいイメージ にあうように工夫を考えてい く。 d 自分の表現したいイメージ に近づくように、何度も練習

準		学習カードにメモする。	する。 e 友達に聴いてもらって意見をもらう。 f さらに練習する。
---	--	-------------	--

4 本題材の学習活動と評価活動の計画

(1) 第1次実践... 2時間扱いで行った。

時間	ねらい・学習活動	題材の評価 規準との関連	評価方法等
1	<p>「こきりこ節」を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴唱により、「こきりこ節」のメロディーを覚え、1番のみ歌えるようにする。 ・ 1番の歌詞の説明をする。 <p>箏で「こきりこ節」を弾けるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「こきりこ節」の数字譜を見ながら、教師の範奏を聴く。 ・ 箏で「こきりこ節」を練習する。 ・ 自分の技能習得の様子について、学習カードでチェックしていく。 	<p>アの</p> <p>アのウの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察 関心や意欲の程度を、歌う様子から評価する。 ・ 観察、学習カード (自己評価・相互評価を含む) 意欲や技能の習得の程度を、表現活動の様子を通して評価する。
2	<p>「こきりこ節」に対する自分のイメージを明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視聴覚教材を見て、「こきりこ節」に対する自分のイメージをもったり音楽の諸要素ごとに気付いたことを学習カードに記入したりする。 <p>自分のもったイメージを実現するための表現の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のイメージに合う音になるように、試行表現し、自分なりの表現の工夫を学習カードに記入する。 ・ 工夫した表現の交流をする。 ・ 5～6人の生徒の発表を聴く。 	<p>アのイの</p> <p>アのイのウの</p> <p>アの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カード 感受や知覚の程度を、学習カードへの記入内容を通して評価する。 ・ 観察、学習カード (自己評価・相互評価を含む) 意欲、表現の工夫、技能の習得の程度を、表現活動の様子や学習カードへの記入内容を通して評価する。 ・ 観察 関心や意欲の程度を、発表を聴く様子から評価する。

(2) 第2次実践当初

時間	ねらい ・学習活動	評価規準との 関連(ゴシック体は総括的)	生徒の行う評価活動	教師の行う評価活動
	STAGE 1 「こきりこ節」のメロディーを覚え、箏で表現できるようにする。			
第1次	<p>「こきりこ節」を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴唱により、「こきりこ節」のメロディーを覚え、1番のみ歌えるようにする。 ・ 1番の歌詞内容を知る。 <p>箏で「こきりこ節」を弾けるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 箏で旋律の探り弾きをする。 ・ 「こきりこ節」の数字譜を見ながら、教師の範奏を聴く。 	<p>アの a</p> <p>アの a</p> <p>アの a</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードへの記入により、どの程度歌えるようになったかの自己評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の関心や意欲の程度を、歌う様子の観察から評価する。 ・ 範奏の時の生徒の集中

/ 1 時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箏で「こきりこ節」を練習する。 	ウの b ウの c	<ul style="list-style-type: none"> ・ 爪の付け方、構え方など基礎的な奏法は、学習カードを利用して相互評価によりチェックする。 	<p>の度合いは、その時の空気の緊張感から感じ取って評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な奏法ができていないかどうかを、巡視によりチェックする。 ・ 弾けていない生徒を見つけ、それぞれに応じた支援を行う。
	<p>自分の技能習得の程度を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の自分の技能習得の様子について、学習カードでチェックしていく 	ウの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1時の終了段階での技能習得の様子を、学習カードを利用して、自己評価・相互評価により、チェックする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の学習の様子を把握し、状況に応じた声かけを行う。
	<p>STAGE 1のまとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ STAGE 1について、自己評価を行う。 	アの	<ul style="list-style-type: none"> ・ STAGE 1への一生懸命度、何をしたか、何に気付いたか、次の活動でどうしたいかについて、自己評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードを見て、この時間の生徒それぞれの自己評価から、各自のとらえる取組の様子を把握し、教師の評価とギャップのある場合は、個々に話しを聞くなど、支援を行う。
第2次 / 2 時間	STAGE 2 「こきりこ節」に対する自分のイメージを明確にする。			
	<p>「こきりこ節」に対する自分のイメージを明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CDを聴いて、「こきりこ節」に対する自分のイメージをもったり、音楽の諸要素ごとに気付いたことを学習カードに記入したりする。 	アの b イの a イの b	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードに文や絵でイメージを書き、それをお互いに交流することによって、自己評価・相互評価を行う。 ・ 学習カードに音楽の諸要素ごとの特徴を書き、それをお互いに交流することによって、自己評価・相互評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の学習カードを見て、イメージの書けていない生徒に声をかけ、状況に応じた支援を行う。 ・ 個々の学習カードを見て、イメージの書けていない生徒に声をかけ、状況に応じた支援を行う。
	<p>STAGE 2のまとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ STAGE 2について自己評価を行う。 	アの	<ul style="list-style-type: none"> ・ STAGE 2への一生懸命度、何をしたか、何に気付いたか、次の活動にどうしたいかについて、自己評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードを見て、この時間の生徒それぞれの自己評価から、各自のとらえる取組の様子を把握し、教師の評価とギャップのある場合は、個々に話しを聞くなど、支援を行う。
STAGE 3 自分のイメージを音を通して適切に表現できるよう、表現の工夫をする。				
	<p>表現活動を行うためのグループを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の表現したいイメージをもち、イメージが似ている 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードに、自分のグループのイメージ、メンバーを記入することによって、自分の表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ作りがうまく行えない生徒への支援を行う。

者同士でグループを作る。		現の目指す方向を確認する。	
<p>自分のもったイメージを実現するための奏法等を探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 箏の奏法の種類を確認する。 ・ 表現したいイメージを実現できる音を探すために、奏法等の試行表現をする。 ・ 試行表現により探せた音の中から、自分のイメージにいちばんよく合う表現の仕方を選び、決定する。 	<p>アの c イの a イの b イの c ウの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードに、試行表現の結果、自分が探せた音を記入し、自分の学習の様子を把握する。 ・ 各自の表現の工夫を記入することによって、自分の工夫の様子を自分で把握していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の学習の様子を把握し、目標に到達していない生徒に声をかけ、状況に応じた支援を行う。
<p>STAGE 3のまとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ STAGE 3について、自己評価を行う。 	アの	<ul style="list-style-type: none"> ・ STAGE 3への一生懸命度、何をしたか、何に気付いたか、次の活動でどうしたいかについて、自己評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードを見て、この時間の生徒それぞれの自己評価から、各自のとらえる取組の様子を把握し、教師の評価とギャップのある場合は、個々に話しを聞くなど、支援を行う。
<p>〔第2時終了時に行う〕</p> <p>自分の技能習得の程度を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の自分の技能習得の様子について、学習カードでチェックしていく。 	ウの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2時の終了段階での技能習得の様子を、学習カードを利用して、自己評価・相互評価により、チェックする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の学習の様子を把握し、状況に応じた声かけを行う。
STAGE 4 イメージの実現を目指して、表現活動に取り組む。			
<p>イメージの実現のために練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イメージを実現できる奏法で表現できるよう、自分のペースで練習する 	<p>ウの d ウの e ウの f</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のイメージの実現状況を、相互評価によりチェックする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ よく工夫できている生徒を見だし、次の学習活動で、発表してもらうようにする。
<p>自分の技能習得の程度を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本題材での自分の技能習得の様子について、学習カードでチェックしていく。 	ウの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本題材の技能習得の様子を、学習カードを利用して、自己評価・相互評価により、チェックする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の学習の様子を把握し、状況に応じた声かけを行う。
<p>〔発展的な学習として〕</p> <p>小アンサンブル活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 打楽器等も入れながらより自分たちのイメージに合う表現活動を行う。 	<p>イの ウの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードに各自の表現の工夫を記入することによって、自分の工夫の様子を自分で把握していく。 ・ 自分のイメージの実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の学習の様子を把握し、目標に到達していない生徒に声をかけ、状況に応じた支援を行う。 ・ よく工夫できている生徒を見だし、次の学習活動で、発表してもらうようにする。

<p>工夫した表現の交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お互いの発表を聴き合う。 	<p>アの d イの a</p>	<p>現状況を、相互評価によりチェックする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の表現のよさや工夫を学習カードに記入することにより自己評価とし、それを交流することにより相互評価とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の表現を聴く様子の観察や、学習カードへの記入状況によって、評価を行う。
<p>STAGE 4 のまとめと本題材のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ STAGE 4 について、自己評価を行う。 ・ 本題材の学習について自己評価を行う。 	<p>アの イの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ STAGE 4 への一生懸命度、何をしたか、何に気付いたかについて、自己評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードを見て、本題材の生徒それぞれの自己評価による取組の様子を把握し、次の題材での指導に生かす。

生徒に明確に目標を示し、生徒が自らの力で目標に迫っていけるようにするために、題材の学習の流れを大きく四つに分け（これをSTAGEと名付けた）、各STAGEの学習をクリアしていくうちに、最終目標に到達できるようにした。今までと違った学習への取り組み方なので、事前に説明はしておいたが、学習中にも説明が必要になってしまったことと、プリントの記入に予想以上に時間がかかってしまったことにより、内容が消化しきれなかった。そのため、生徒の気付きを生かしながら、題材の目標の達成に向けて、学習活動の組立ての調整を図っていった。

(3) 調整後の第2時の計画

<p>ねらい ・ 学習活動</p>	<p>評価規準との 関連(ゴシック体は総括的)</p>	<p>生徒の行う評価活動</p>	<p>教師の行う評価活動</p>
<p>STAGE 2 表現したいイメージを実現するための工夫をする。</p>			
<p>「こきりこ節」の音楽の諸要素の働きを知覚する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「こきりこ節」のCDを聴いて、音楽の諸要素ごとの気付いたことを学習カードに記入する。 <p>自分の表現したいイメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気付いたことを大事にしながら自分の感じる力と自分の技能でどんな感じに表現したいかを、学習カードに記入する。 	<p>アの b イの a</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードに音楽の諸要素ごとの特徴を書き、それをお互いに交流することによって、自己評価・相互評価を行う。 ・ 学習カードに記入できるかどうかによって、自己評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の学習カードを見て、書けていない生徒に声をかけ、状況に応じた支援を行う ・ 個々の学習カードを見て、書けていない生徒に声をかけ、状況に応じた支援を行う。
<p>自分のもったイメージを実現するための奏法等を探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 箏の奏法の種類を確認する。 ・ 表現したいイメージを実現できる音を探すために、奏法等の試行表現をする。 ・ 試行表現により探せた音の中から、自分のイメージにいちばんよく合う表現の仕方を選び、決定する。 <p>イメージの実現状況を相互評価</p>	<p>アの c イの a イの b イの c イの d ウの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードに、試行表現の結果、自分が探せた音を記入し、自分の学習の様子を把握する。 ・ 各自の表現の工夫を記入することによって、自分の工夫の様子を自分で把握していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の学習の様子を把握し、目標に到達していない生徒に声をかけ、状況に応じた支援を行う。

<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> お互いに、自分の表現したいイメージを実現する音を交流し合い学習カードに記入し合う。 	<p>アの c ウの e</p>	<ul style="list-style-type: none"> お互いに交流し合った音をとらえ、自分なりのコメントを書いて相手に戻すことにより、相互評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の学習の様子を把握し、目標に到達していない生徒に声をかけ、状況に応じた支援を行う。
<p>STAGE 2 のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> STAGE 2 について、自己評価を行う。 	<p>アの</p>	<ul style="list-style-type: none"> STAGE 2 への一生懸命度、何をしたか、何に気付いたか、次の活動でどうしたいかについて、自己評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを見て、この時間の生徒それぞれの自己評価から、各自のとらえる取組の様子を把握し、教師の評価とギャップのある場合は、個々に話しを聞くなど、支援を行う。

(4) 調整後の第3時の計画

ねらい ・学習活動	評価規準との関連(ゴシック体は総括的)	生徒の行う評価活動	教師の行う評価活動
<p>STAGE 3 自分で工夫した表現を取り入れて「こきりこ節」を演奏する。</p>			
<p>自分のもったイメージを実現するための奏法等を探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 箏の奏法の種類を確認する。 表現したいイメージを実現できる音を探すために、奏法等の試行表現をする。 試行表現により探せた音の中から、自分のイメージにいちばんよく合う表現の仕方を選び、決定する。 	<p>アの c イの a イの b イの c ウの</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードに、試行表現の結果、自分が探せた音を記入し、自分の学習の様子を把握する。 各自の表現の工夫を記入することによって、自分の工夫の様子を自分で把握していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の学習の様子を把握し、目標に到達していない生徒に声をかけ、状況に応じた支援を行う。
<p>イメージの実現状況を相互評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> お互いに、自分の表現したいイメージを実現する音を交流し合い学習カードに記入し合う。 	<p>アの c ウの e</p>	<ul style="list-style-type: none"> お互いに交流し合った音をとらえ、自分なりのコメントを書いて相手に戻すことにより、相互評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の学習の様子を把握し、目標に到達していない生徒に声をかけ、状況に応じた支援を行う。
<p>イメージの実現のために練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> イメージを実現できる奏法で表現できるよう、自分のペースで練習する。 	<p>ウの d ウの e ウの f</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージの実現状況を、相互評価によりチェックする。 	<ul style="list-style-type: none"> よく工夫できている生徒を見だし、次の学習活動で、発表してもらうようにする。
<p>工夫した表現の交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> お互いの発表を聴き合う。 	<p>アの d イの a</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達の表現のよさや工夫を学習カードに記入することにより自己評価とし、それを交流することにより相互評価とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の表現を聴く様子の観察や、学習カードへの記入状況によって、評価を行う。
<p>自分の技能習得の程度を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本題材での自分の技能習得の様子について、学習カードでチェックしていく。 	<p>ウの</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本題材の技能習得の様子を、学習カードを利用して、自己評価・相互評価により、チェッ 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の学習の様子を把握し、状況に応じた声かけを行う。

STAGE 3のまとめと本題材のまとめをする。		クする。	
<ul style="list-style-type: none"> STAGE 3について、自己評価を行う。 本題材の学習について自己評価を行う。 	アのイの	<ul style="list-style-type: none"> STAGE 3への一生懸命度、何をしたか、何に気付いたかについて、自己評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを見て、本題材の生徒それぞれの自己評価による取組の様子を把握し、次の題材での指導に生かす。

5 第2次実践における「評価の進め方」

学習活動における 総括的評価規準 ・形成的評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な評価の方法 Aとする場合のキーワード Cと判断される生徒への働きかけ
ア 友達と協力しながら、表現活動に、意欲的に取り組んでいる。 a 「こきりこ節」が箏で弾けるようになりたいという期待感をもって、途中で投げ出さずに練習に取り組める。 b 「こきりこ節」のイメージを感じ取ったり、音楽の諸要素の働きを知覚したりする活動に取り組んでいる。 c 自分のイメージを実現するための試行表現活動に取り組んでいる。 d イメージの実現を目指して、表現活動に取り組んでいる。	<p>【教師による評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価の方法 この観点については、本題材の学習過程における、すべての表現活動について、評価をしていく。練習している生徒たちの間を回りながら、一人一人の活動状況を観察していく。 まずは、すべての生徒が、すべての活動において、「おおむね満足」を達成できることを目指し、そのような授業を仕組んでいく。そして、様々な活動の中で、下記のキーワードのような、特に輝くような活動の様子が見られる生徒を認め、Aと判断したい。 Aとする場合のキーワード 自分なりのこだわりをもって、何度も練習する。 友達と共に、高め合っていこうとする様子が見られる。 Cと判断される生徒への働きかけ この観点は、本題材の学習活動の一番の基本となるところである。この「学習への意欲」が見られないと、どんな活動を教師が提示しても学習が成り立たなくなる。生徒に、学習に集中しない、明らかにやる気がないなどの様子が見られ、意欲がもてていないと判断したら、積極的に声をかけて、学習への意欲がもてるように支援していく。また、学習以前の問題のあることも多いので、それぞれの状況に応じて、学級担任と連携するなどしていく。 <p>【生徒による評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価の方法 この観点は、すべての学習活動の原動力となる部分である。a～dの形成的評価規準を、それぞれの学習活動後の自己評価（A B C Dの四段階）により、チェックしていく。自己評価と教師の評価との差が激しい生徒は、その心理的背景を探ったり、本人の話しを聞いたりして、溝を埋められるようにし、生徒に、自分の学習状況を自分自身で確認できる力をつけていきたい。

学習活動における 総括的評価規準 ・形成的評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な評価の方法 Aとする場合のキーワード Cと判断される生徒への働きかけ
イ 「こきりこ節」のイメージを感じ取り、音楽の諸要素の働きを知覚している。 a C Dを聴いて、音楽の諸要素ごとに特徴を書き留めることができる。	<p>【教師による評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価の方法 この学習活動は、C Dの鑑賞から音楽の諸要素ごとに特徴を書き留める活動である。教師が準備した学習カードに感受した内容やイメージを記入することにより、各自の思いを明確にしていく。教師は、生徒が学習カードに記入するときに机間巡視したり、学習後に、学習カードのチェックをしながら、それぞれの感受した内容について、評価していく。イメージの感受、諸要素の知覚の両方ができて、「おおむね満足」と判断する。 Aとする場合のキーワード 自分たちの「探り弾き」での表現との違いに触れられている。 （民謡のこぶし、リズム、テンポ等） 感受した内容が、質的に優れていると判断でき、クラス全員に紹介できるほどのものを記述している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ Cと判断される生徒への働きかけ 学習カードへの記述がなされていない生徒を、机間支援により見つける。意欲の問題で記入できない生徒には、やる気を促すような声かけを行い、感受ができずに記入できない生徒には、その生徒に理解できることばで質問を言い直すなどして、支援する。 <p>【生徒による評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価の方法 学習カードに音楽の諸要素ごとの特徴を書き、それをお互いに交流する活動を行うことにより、自分の学習と他の生徒の学習との比較をすることができる。そのことが、すなわち自己評価・相互評価となる。
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な評価の方法 ・ Aとする場合のキーワード ・ Cと判断される生徒への働きかけ
イ	<p>学習活動における 総括的評価規準 ・ 形成的評価規準</p> <p>感じ取ったイメージを音で実現するために、表現の工夫をしている。</p> <p>a 自分の表現したいイメージをとらえることができる。</p> <p>b 自分のイメージを実現するためにはどんな音を出せばいいのかを予想する。</p> <p>c 様々な音色を出すための、箏の奏法の種類を知る。</p> <p>d 自分のイメージにあった音を、試行表現により探していく。</p> <p>【教師による評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価の方法 表現したい音色等のイメージになるような奏法を見つけるための、試行表現活動の部分での評価である。活動をしている生徒の間を回り、練習中の演奏の聴取から、どの程度工夫しようとしているかを観察する。具体的には、音色・リズム・強弱・速度などの音楽の諸要素に着目して、それらを自分なりに組み合わせたり、変化させたりしながら、表現の工夫をしようとしているかどうかを見る。また、工夫した内容を学習カードに記入してもらい、学習後にも、学習カードの分析により評価する。 ・ Aとする場合のキーワード 一つの奏法を見つけて終わりにするのではなく、様々な奏法を見つれたり、試したりしている。 友達と話し合いながら、よりよい奏法を見つけている。 ・ Cと判断される生徒への働きかけ 活動の様子を観察から、取組のよくない生徒を見つける。意欲の問題で活動できていない生徒には、やる気を促すような声かけを行い、何をしようとしていないかわからずに、活動できていない生徒には、側に行き表現の工夫を支援する。 <p>【生徒による評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価の方法 学習カードに、試行表現の結果、自分が探せた音を記入していくことによって、自分の奏法等の工夫の様子を自分自身で把握する。そのことによって自己評価とする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な評価の方法 ・ Aとする場合のキーワード ・ Cと判断される生徒への働きかけ
イ	<p>学習活動における 総括的評価規準 ・ 形成的評価規準</p> <p>友達の表現を聴き、そのよさや工夫を聴き取っている。</p> <p>a 友達の表現のよさや工夫を、学習カードにメモする。</p> <p>【教師による評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価の方法 友達の表現を聴いて、そのよさや工夫を聴き取っているかどうかの評価である。鑑賞活動をしている生徒の間を回り、学習カードへの記入状況を観察する。また、学習後には、学習カードへの記入内容の分析により評価する。 ・ Aとする場合のキーワード 友達の表現のよさや工夫点を、二つ以上書けている。 ・ Cと判断される生徒への働きかけ 活動の様子を観察から、取組のよくない生徒を見つける。意欲の問題で活動できていない生徒には、やる気を促すような声かけを行う。 <p>【生徒による評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価の方法 友達の表現のよさや工夫を学習カードに記入できるかどうかによって自己評価とし、それを交流することによって相互評価とする。

<p>学習活動における 総括的評価規準 ・形成的評価規準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な評価の方法 ・ Aとする場合のキーワード ・ Cと判断される生徒への働きかけ
<p>ウ 「こきりこ節」を、箏で多少の間違いはあっても最後まで弾くことができる。</p> <p>a 「こきりこ節」を歌える。</p> <p>b 爪の付け方、構え方、弾き方がわかる。</p> <p>c 楽譜の見方がわかる。</p>	<p>【教師による評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の方法 探り弾きの活動を通して、「こきりこ節」の表現が身に付いたかどうかの評価である。箏の基礎的な奏法については、全員で確認するが、その後、生徒たちのそれぞれの活動になるので、生徒の間を回りながら、その演奏の聴取により判断する。多少、つかえたりしても、最後まで弾けるようになった生徒は、「おおむね満足」と判断したい。また、この観点の評価は、学習指導案の上では、第1時に設定されているが、第1時ではできていなくても、練習の結果、第2時・第3時に達成できるようになった場合も、「おおむね満足」と判断する。 ・ Aとする場合のキーワード 何度やっても正確に弾ける。 美しい表現を追求している。 ・ Cと判断される生徒への働きかけ 活動の様子の観察から、取組のよくない生徒を見つける。意欲の問題で活動できていない生徒には、やる気を促すような声かけを行い、技能の問題でできていない生徒には、側に行きやり方を説明しながら、支援する。 <p>【生徒による評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の方法 形成的評価規準を生徒に示し、学習カードを使って確認しながら、確実な習得を目指す。1単位時間の終わりごとに、習得の程度を自己評価・相互評価していくが、最終的な評価は3時間目の終わりに、ウの と合わせて質的に行う。

<p>学習活動における 総括的評価規準 ・形成的評価規準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な評価の方法 ・ Aとする場合のキーワード ・ Cと判断される生徒への働きかけ
<p>ウ 「こきりこ節」を少しでも自分なりの表現の工夫を加えながら弾くことができる。</p> <p>a 譜面を見ながら、たどたどしくても最後まで弾ける。</p> <p>b どこが弾けないのかが自分でわかり、そこを取り出して何度も練習する。</p> <p>c つっかえずに弾けるようになってきたら、自分の表現したいイメージにあうように、ここをこうしてみよう、を考えていく。</p> <p>d 自分の表現したいイメージに近づくように、何度も練習する。</p> <p>e 友達に聴いてもらって、意見をもらう。</p> <p>f さらに練習する。</p>	<p>【教師による評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の方法 自分のイメージに合った音色等を出すための奏法を決めた後、それに近づけるように何度も練習する場面での評価である。 生徒の間を回りながら、その演奏の聴取により判断するが、友達同士の聴き合い（相互評価）も取り入れていく。相互評価の場面では、生徒にわかるような、評価の視点を伝えておく必要がある。 イメージが実現されているかどうかの見極めはむずかしいが、演奏の聴取から、質的に優れており、クラス全員に紹介できるほどの表現はAと判断したい。 ・ Aとする場合のキーワード 表現が質的に優れている。 すらすらと最後まで弾ける。 ・ Cと判断される生徒への働きかけ 活動の様子の観察から、取組のよくない生徒を見つける。意欲の問題で活動できていない生徒には、やる気を促すような声かけを行い、技能の問題でできていない生徒には、側に行き練習の様子を見ながら、支援する。 <p>【生徒による評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の方法 形成的評価規準を生徒に示し、学習カードを使って確認しながら、自ら目標に迫れるようにする。途中で相互評価も取り入れ、自分の表現を客観的に判断してもらう場面をつくる。

6 本題材で使用した学習カード

(1) 学習状況チェックカード

学習状況チェックカード『楽器の特徴を生かし、イメージをもって表現しよう』その1									
学習日 月 日()	年 組 番 氏名								
1. 「こきりこ節」は、歌えるようになったかな? 自己評価 <table border="1"> <tr> <td>・1番は、完全に覚えられた。一人でも歌える。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・楽譜や歌詞を見れば、一人でも歌える。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・友達の声聴きながらだったら、全部歌える。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・友達の声聴いても、全部は歌えない。</td> <td></td> </tr> </table> (あてはまるところに をつけよう。)		・1番は、完全に覚えられた。一人でも歌える。		・楽譜や歌詞を見れば、一人でも歌える。		・友達の声聴きながらだったら、全部歌える。		・友達の声聴いても、全部は歌えない。	
・1番は、完全に覚えられた。一人でも歌える。									
・楽譜や歌詞を見れば、一人でも歌える。									
・友達の声聴きながらだったら、全部歌える。									
・友達の声聴いても、全部は歌えない。									
2. 箏を弾いてみる前に、ちょっと確認しよう! 相互評価 <table border="1"> <tr> <td>爪の付け方は?</td> <td></td> <td rowspan="3"> (友達と確認し合って、OKなら、すごくよければ つけよう) </td> </tr> <tr> <td>箏への構え方は?</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その弾き方で、よい音が出るかな?</td> <td></td> </tr> </table>		爪の付け方は?		(友達と確認し合って、OKなら、すごくよければ つけよう)	箏への構え方は?		その弾き方で、よい音が出るかな?		
爪の付け方は?		(友達と確認し合って、OKなら、すごくよければ つけよう)							
箏への構え方は?									
その弾き方で、よい音が出るかな?									
3つとも がついたら、さあ、弾いてみよう!									

このカードの利用により、箏を弾くための基礎・基本を確認することができた。しかし、カードの枚数が多くなってしまふことから、楽譜のプリントのすみにこの内容を書いておくなどした方がよいと考えた。

学習状況チェックカード『楽器の特徴を生かし、イメージをもって表現しよう』その2															
学習日 月 日()	年 組 番 氏名														
1. 「こきりこ節」の民謡のCDを聴いて、気付いたことを書こう。 <table border="1"> <tr> <th>音楽の諸要素</th> <th>CDを聴いて気付いたこと</th> </tr> <tr> <td>音色:音の感じは、どうかな?</td> <td></td> </tr> <tr> <td>リズム:リズムの感じは、どうかな?</td> <td></td> </tr> <tr> <td>旋律:節回しの感じは、どうかな?</td> <td></td> </tr> <tr> <td>速度:曲の速さは、どうかな?</td> <td></td> </tr> <tr> <td>強弱:演奏の強さはどうかな?</td> <td></td> </tr> <tr> <td>曲想:曲そのものの気持ちは?</td> <td></td> </tr> </table>		音楽の諸要素	CDを聴いて気付いたこと	音色:音の感じは、どうかな?		リズム:リズムの感じは、どうかな?		旋律:節回しの感じは、どうかな?		速度:曲の速さは、どうかな?		強弱:演奏の強さはどうかな?		曲想:曲そのものの気持ちは?	
音楽の諸要素	CDを聴いて気付いたこと														
音色:音の感じは、どうかな?															
リズム:リズムの感じは、どうかな?															
旋律:節回しの感じは、どうかな?															
速度:曲の速さは、どうかな?															
強弱:演奏の強さはどうかな?															
曲想:曲そのものの気持ちは?															
2. 気が付いたことを大事にしなが、あなたはどんなふうに表現したいですか? 表現したいイメージをことばで書いてみよう。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>表現したいイメージ・イメージの実現のためにどんな音を出せばいいか</td> </tr> </table>		表現したいイメージ・イメージの実現のためにどんな音を出せばいいか													
表現したいイメージ・イメージの実現のためにどんな音を出せばいいか															
3. 表現したいイメージを実現するために、どんな工夫をしたらいいかな? 一つでも二つでも、書けるところを書いていこう。 <table border="1"> <tr> <th>音楽の諸要素</th> <th>どのように工夫するか?</th> </tr> <tr> <td>音色:どんな音が合うかな?</td> <td></td> </tr> <tr> <td>リズム:どんなリズムが合うかな?</td> <td></td> </tr> <tr> <td>旋律:どんな節回しが合うかな??</td> <td></td> </tr> <tr> <td>速度:どんな速さが合うかな?</td> <td></td> </tr> <tr> <td>強弱:どんな強さが合うかな?</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の工夫</td> <td></td> </tr> </table>		音楽の諸要素	どのように工夫するか?	音色:どんな音が合うかな?		リズム:どんなリズムが合うかな?		旋律:どんな節回しが合うかな??		速度:どんな速さが合うかな?		強弱:どんな強さが合うかな?		その他の工夫	
音楽の諸要素	どのように工夫するか?														
音色:どんな音が合うかな?															
リズム:どんなリズムが合うかな?															
旋律:どんな節回しが合うかな??															
速度:どんな速さが合うかな?															
強弱:どんな強さが合うかな?															
その他の工夫															
4. イメージの実現状況を、お互いにチェックしよう。 相互評価 ... で評価 <table border="1"> <tr> <th>チェックした人</th> <th>評価</th> <th>コメント</th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>		チェックした人	評価	コメント											
チェックした人	評価	コメント													

音楽の諸要素に気付くことについては、低学年のうちからの積み重ねが大事だと感じた。音楽の諸要素そのものの意味がわからない生徒がいて、説明を加えながら行った。

学習状況チェックカード『楽器の特徴を生かし、イメージをもって表現しよう』その3		
学習日	月 日 ()	年 組 番 氏名
お互いの表現のよさや工夫を感じ取ろう		
名前	「いい表現だな」「工夫しているな」と思ったところ	その他で気付いたことや感想など

お互いの表現の交流時に使用した。このカードへの書き込みの様子から、それぞれの生徒の感受の様子がわかる。また、相互評価としても活用できる。

(2) 技能習得状況チェックカード

技能習得状況チェックカード『楽器の特徴を生かし、イメージをもって表現しよう』						
年 組 番 氏名						
今日は、どこまでできるようになったかな？				自己評価・相互評価		
達成状況	/		/		/	
	自己	相互	自己	相互	自己	相互
・ 1段目が弾ける。						
・ 2段目が弾ける。						
・ 3段目が弾ける。						
・ 4段目が弾ける。						
・ 5段目が弾ける。						
・ たどたどしいけど、どうにか最後まで弾ける。						
・ 2～3回、つかえるけど、最後まで弾ける。						
・ つっかえないで、すらすら最後まで弾ける。						
・ 自分なりの表現の工夫をしながら、弾ける。						
・ 自分なりの工夫をしながら、すらすら弾ける。						
できるようになったところに をつけよう。 相互評価のときに、よくできていたら をつけてあげよう。						
これでできるよ！！表現の工夫！！						
「自分の表現したいイメージを実現する」ためのチェックポイントはこれだ！						
チェック項目					やれた？	
1. どこが弾けないのかが自分でわかり、そこを取り出して何度も練習する。					/	/
2. 譜面を見ながら、たどたどしくても最後まで弾ける。					/	/
3. 自分の表現したいイメージに合うように、表現の工夫を考える。					/	/
4. 友達に聴いてもらって、意見をもらい、自分の表現に取り入れる。 〔相互評価〕					/	/
5. 自分の表現したいイメージに近づくよう、何度もやってみる。					/	/
やれたところは、 をつけよう！						

それぞれの生徒の技能の習得状況がわかる。自己評価にも相互評価にも利用できる。

(3) 学習状況ふりかえりカード

学習状況ふりかえりカード 『楽器の特徴を生かし、イメージをもって表現しよう』	
年 組 番	氏名
最終 目標	
STAGE 1	
目標	
自分の一生懸命度は？ A B C D	
どんな活動をしましたか。	
どんなことに気付きましたか。どんなことが身に付きましたか。	
目標達成のために、この後どんな学習をしたいですか。	
この STAGE で、先生や友達に認められたことはどんなことですか。	
STAGE 3	
目標	
自分の一生懸命度は？ A B C D	
どんな活動をしましたか。	
どんなことに気付きましたか。どんなことが身に付きましたか。	
目標達成のために、この後どんな学習をしたいですか。	
この STAGE で、先生や友達に認められたことはどんなことですか。	
この題材の学習を終えて（「最終目標に対してどうだったか」で、感想を書きましょう。）	

題材の最初から最後まで通してこのカードを利用することにより、それぞれの生徒の学習への取り組み方、学び取っていることなどの様子が見える。小さな段階での目標をクリアしながら、最終目標に迫っていけるような構成になっている。